

なんYA! かんYA!

あの有名作家のもうひとつの仕事は？

2021 年は、大谷翔平選手が投手・野手の二刀流でメジャーリーグの MVP を受賞するなど大活躍しました。作家の中にも、別の職業を持ちながら、二刀流で活躍する方がいます。そんな作家と職業の組み合わせ、線で結んでみてください。あなたはいくつわかりますか？

主な作品	作家	職業
『図書館の神様』	瀬尾まいこ・	・新聞記者（例）
『火花』	又吉直樹・	・医者
『こころ』	夏目漱石・	・教員
『母影』	尾崎世界観・	・弁護士
『オルタネート』	加藤シゲアキ・	・アイドル
『神様のカルテ』	夏川草介・	・ミュージシャン
『元彼の遺言状』	新川帆立・	・お笑い芸人



トショブラ♥ ~ネット用パソコン&Wi-Fiも完備~

図書館には調べものに役立つ本がたくさんあります。インターネットを見るためのパソコンもそれぞれの図書館に設置されていて、だれでも使うことができます。また、Wi-Fiも完備しているので、手持ちのスマホやタブレットでも無料でインターネットが利用できます。Wi-Fiを利用するにはパスワードが必要なので、カウンターのスタッフに聞いてくださいね。もちろん調べものに困ったら、図書館司書がお手伝いしますので、お気軽にご相談ください！

発行：甲賀市図書館

水口図書館：63-7400 土山図書館：66-1056

甲賀図書館情報館：88-7246 甲南図書交流館：86-1504

信楽図書館：82-0320

ホームページ：http://lib.city.koka.lg.jp/

Book guide for Young Adult

甲賀市図書館ヤングアダルト通信



vol.14

2021. Winter - Spring

Koka City Library

ヤングアダルト（Young Adult）とは、13歳から19歳の世代の人たちに対して使われている言葉で、「若いおとな」という意味です。甲賀市図書館ヤングアダルト通信『ホンマニ！』では、ヤングアダルト世代のあなたに、おすすめの本を紹介します。

おすすめ
この1冊

美しいイラストで鮮やかによみがえる
怪奇物語の名作

『桜の森の満開の下』

坂口安吾／著 しきみ／絵
立東舎



昔、鈴鹿峠は旅人が桜の森の花の下を通らなければならない道になっていました。花の季節になると旅人は花の下で気が変になるので、逃げようと一目散に走り出すのでした。その山に住む山賊は、ある時、街道から八人目の女房をさらってきました。女は不思議と男を恐れず、それどころか他の女房を殺すように命じました。それから毎日、都の暮らしを懐かしみ、ご馳走や美しい装飾品をねだるのでした……。

満開の桜は美しいばかりではなく、神秘的で怖ろしささえ感じさせます。坂口安吾の傑作を、しきみの美しい挿絵がさらに引き立てます。人気イラストレーターと近代文学のコラボが人気の「乙女の本棚」シリーズからの1冊です。

●呪文のような魔法の言葉

『リマ・トゥジュ・リマ・トゥジュ・トゥジュ』

こまつあやこ／著 講談社



中学2年生の沙弥はマレーシアからの帰国子女で、日本の学校生活にいささか緊張気味。ある日、見ず知らずの3年生の佐藤先輩から、「ギンコウ」に誘われます。「ギンコウ」とは外に出て短歌を詠む「吟行」のことで、最初戸惑っていた沙弥ですが、マレーシア語を織り交ぜて歌を詠むと、自分の素直な気持ちを形にできる楽しさに気付いていきます。

マレーシア語で「リマ」は「五」、「トゥジュ」は「七」を意味し、読んだ後には爽快感が残る青春小説です。

●幸せになるために

『きみに「ただいま」を言わせて』

櫻いいよ／著 実業之日本社



幼いころに母・葛葉（くずは）を亡くし、葛葉の幼なじみのかおりとその夫・遊（ゆう）に引き取られた、舞香。母に虐待されていた舞香は、血のつながりはないが、今のお父さんとお母さんとのあたたかい生活に満足している。しかし、一見、幸せそうに見える三人だったが、それぞれが葛葉とその死に関する、誰にも言えない秘密と複雑な想いを抱えていた。

あまりに重すぎるものを抱えながらも、自分の心と折り合いをつけて生きていきたい。血がつながっていないからこそ幸せになる方法がある。そんな三人がたどり着いた答えとは……。

●今日も駅で、学校で、何かが起こる

『きみとホームで待ち合わせ』

神戸遥真／著 講談社



体が弱く、いつも体育を見学している江川さん。無理して参加したマラソン中に座り込んでしまった彼女を保健室まで運んだ翔太は、その体の軽さとイメージと違いすぎるキャラに驚く。駅で話しかけても、学生カバンで殴られ、「空気読め」と言われる始末だ。友達にもよく言われる言葉、「空気読め」。だけど、頭の中を占領しだした江川さんのことを知りたくて仕方がない。「空気なんて読んでもしょうがない。」、翔太はもう一度、彼女に声をかけた——。（「走りたいあの子」）

同著者による「恋ポテ」シリーズのクラスメートたちが登場する、五話のアンソロジー集。

●これは、遠くても同じ空の下の国のこと

『希望の一滴』

中村哲／著 西日本新聞社



2019年12月アフガニスタンで日本人医師の中村哲さんが襲撃により亡くなった。このニュースは大きく報じられたが、彼がこの国でどんな支援をしていたか知っているだろうか。戦乱、干ばつ、飢餓が苛烈を極め、医療だけでは人を救えない現実と直面し、困難な灌漑事業をも行っていたのだ。全ては命を救うために。

平和を願い、支援に尽力した人の記録がここにある。ニュースだけでは知り得ない世界の実情と彼自身の言葉を読んでほしい。

●世の中に隠れている呪いや縛りを解きはなとう

『脱・呪縛』

鎌田實／著 理論社



人は、見えない何かに縛られている。生まれた環境、格差社会による貧困、世の中に飛び交う理不尽な視線や言葉。もしかしたら、自分も他人に浴びせているかもしれない。なぜ自分ばかり？なぜこんなに腹が立つ？どうしたら自由な人間になれるのか？

難民キャンプや被災地で支援活動をしている医師の鎌田さんが、自分の人生を振り返りながら、10代の君たちへ温かく力強い言葉をかけてくれる。この本は24時間オープンな保健室。どのページからでも立ち寄れる。さあ扉をたたいてみよう。

●カップ焼きそば+ひきわり納豆はウマーでした

『悪魔の食べ合わせレシピ』

鈴木隆一／著 講談社



プリン+ラーメン、ステーキ+チョコレート、カップ焼きそば+ひきわり納豆…これらの食べ合わせは、トンデモレシピの提案？？ではなくAI（人工知能）が科学的に導き出した、多くの日本人が美味しく感じる最高の組み合わせ。

人工舌「味覚センサーレオ」は味を研究し、美味しさを可視化するために開発されました。レオくんにかかれば、我を忘れて夢中で食べちゃう悪魔的レシピだって簡単に作れちゃうのだとか。さて、あなたのお口に合うレシピはあるのでしょうか。